

経営比較分析表（令和3年度決算）

奈良県 平群町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A6	自治体職員
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	87.72	99.96	3,960	

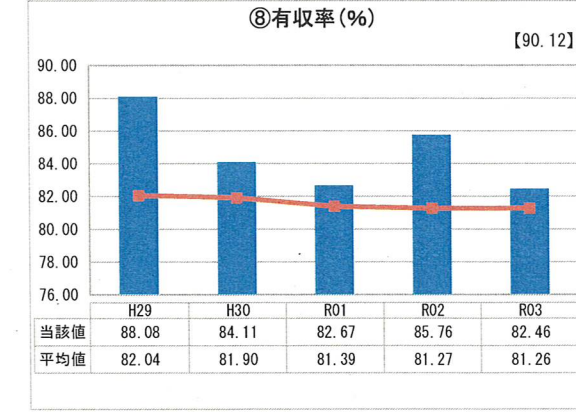
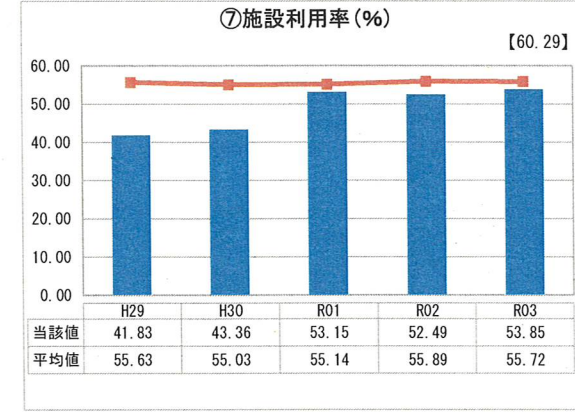
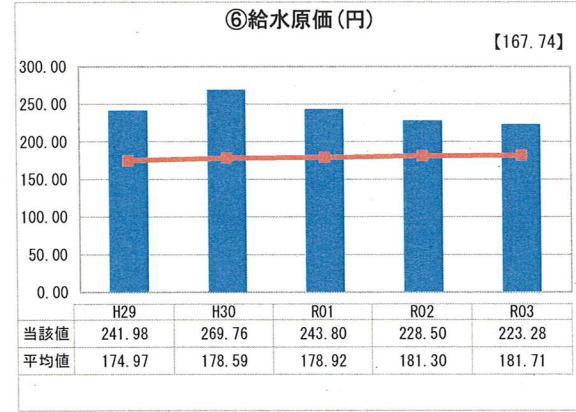
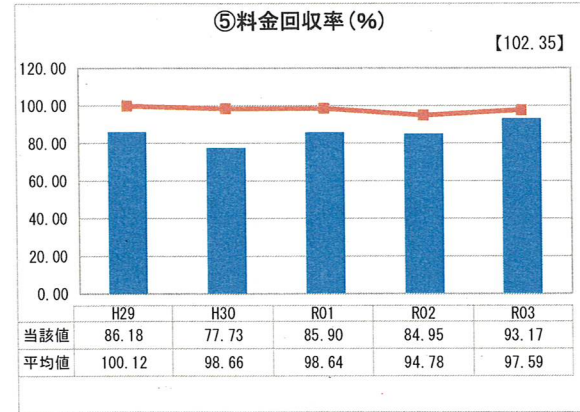
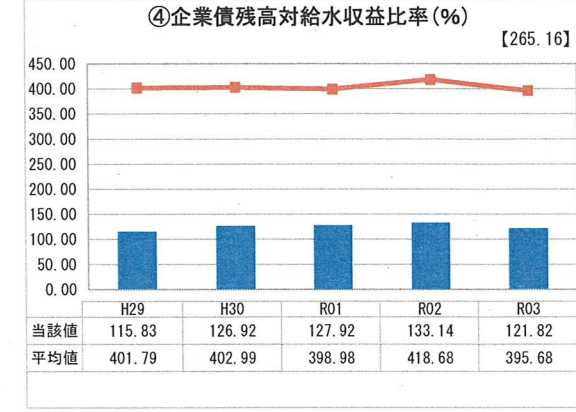
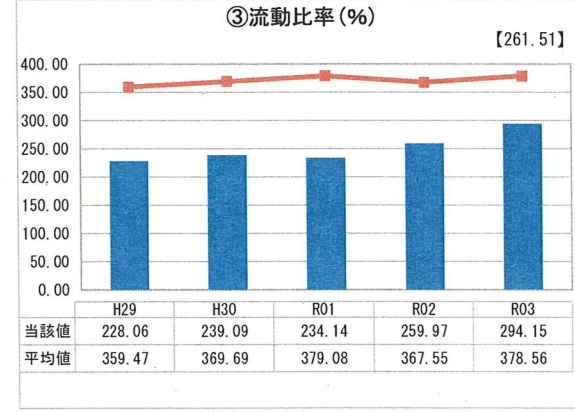
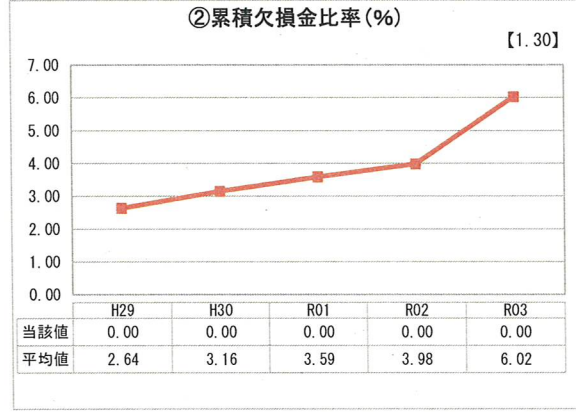
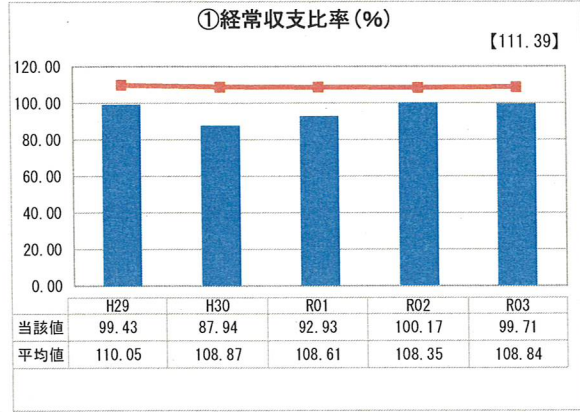
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
18,582	23.90	777.49
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
18,553	18.21	1,018.84

グラフ凡例

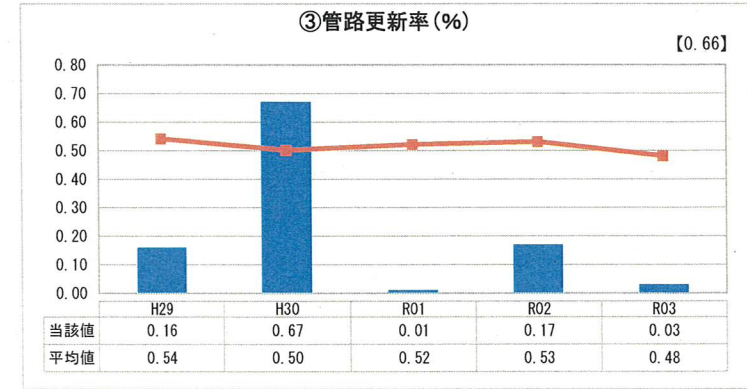
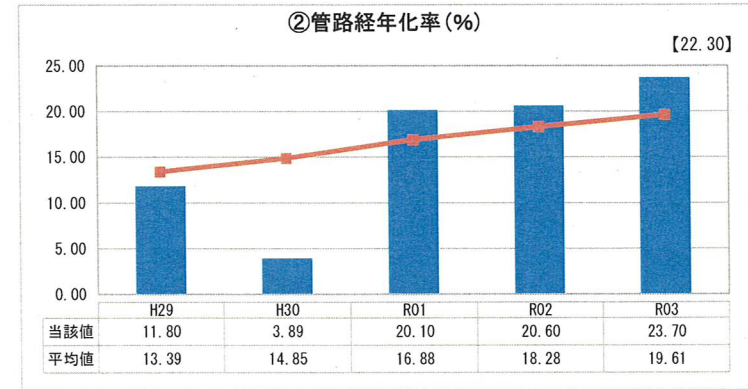
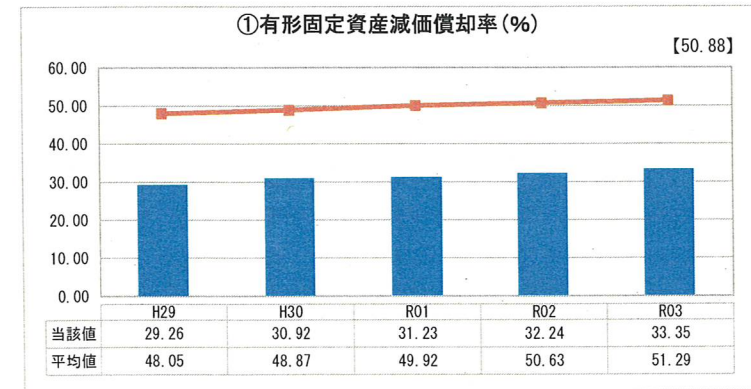
- 当該団体値(当該値)
- 類似団体平均値(平均値)

【】 令和3年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

① 経常収支比率は、100%を下回っています。要因としては、コンビニ収納サービスの開始にあたりシステム改修費用が発生したことによるものです。

② 累積欠損金については、県域水道一体化に向けて今後も欠損金を出さないように努めます。

③ 流動比率については、今後も現在の水準を維持するように努めます。

④ 企業債残高対給水収益比率については、令和4~5年度で中央監視制御システム更新工事を実施し、企業債の借入れを行いますので今後は増加傾向になります。

⑤ 料金回収率については、平群町水道ビジョンにより令和6年度で水道料金を約20%程度値上げする予定であったが、令和7年度から県域水道一体化事業が開始され、料金が改正されることから現状維持になります。

⑥ 給水原価については、施設等の更新費用を削減し給水原価上昇の抑制に努めます。

⑦ 施設利用率については、県域水道一体化後に施設の統廃合、ダウンサイジング等により適正な施設規模になるように努めます。

⑧ 有収率については、漏水箇所の早期発見修理を行い有収率の向上に努めます。

今後は給水人口の低下に伴い水道収益が減少していく中、健全な事業運営を図っていくためには適正な更新計画を立案し、適正な投資を検討することでコストの縮減に努める必要があります。

2. 老朽化の状況について

① 有形固定資産減価償却率については、耐用年数の経過した電気設備を順次更新したことにより、平均値よりも低い数字になっています。

② 管路経年化率については、各配水池の電気設備の更新を優先してきたため平均値を上回っています。

③ 管路更新率については、県域水道一体化を見据えて累積欠損金を出さないよう管路更新事業を縮小したためです。今後は既設設備を適切に維持管理し長寿命化に努めていきます。

全体総括

令和7年度より県域水道一体化による事業統合が開始されることにより、これまで以上に老朽施設の更新の促進に期待できます。また、安定した給水原価、供給単価の維持にも期待できます。それまでは、現状の経済性を充分考慮した合理的、効率的な事業を取り組んでいきます。